

ゾーニング

I エリア：林帯幅 100m のうち汀線側法面等を除く 30m は防潮機能、100m までは飛砂防止機能及び津波波力減殺

II エリア：林帯幅 100m は津波波力減殺、内陸側 30m（法面等を除く）は防風機能

今回の対象エリア

エリア		I		II	
ゾーン	I-A		I-B	II-A	II-B
	犠牲林帯				
林帯幅	最低30m程度 (法面除く)		60m程度 (管理道込)	60m程度 (管理道込)	30m程度 (法面除く)
植栽密度	10,000本/ha		5,000本/ha	5,000本/ha	5,000本/ha
犠牲林帯	アキグミ ^{※1}				
標準樹種	優 先 植 栽 樹 種	クロマツ			
		アカマツ			
	その 他 の 植 栽 樹 種 ^{※4}			ヤマハンノキ コナラ オニグルミ ^{※2} ヤシャブシ エノキ ケヤキ ヤマザクラ ^{※3} カスミザクラ	クヌギ ウワミズザクラ
肥料木 ^{※5} 先駆性樹種			ヤマハンノキ ケヤマハンノキ ハンノキ ネムノキ ヤマハギ アキグミ ヤナギ類の挿し木 ^{※6}		

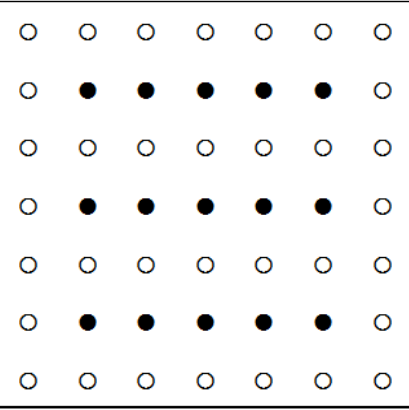
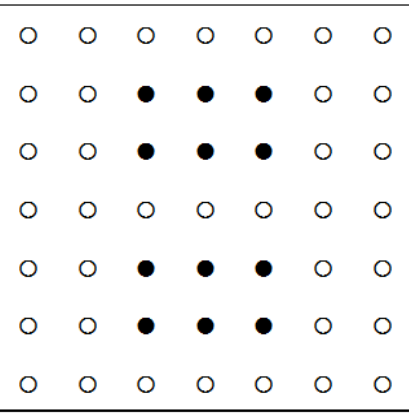
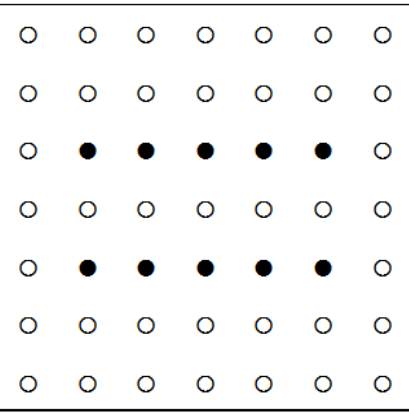
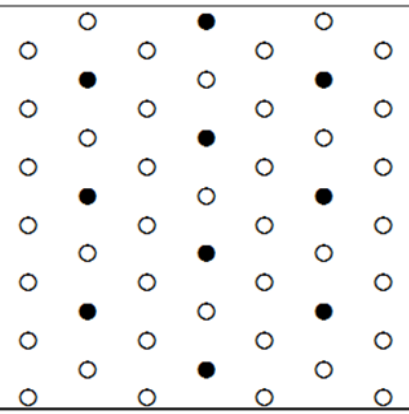
- ※1 最前線の内、飛砂に埋まる可能性のある場所(犠牲林帯)ではクロマツに変えてアキグミを植栽する。
- ※2 オニグルミはアレロパシーにより、周囲の植栽樹の成長を妨げるおそれがあるため注意を要する。
- ※3 ヤマザクラは交雑しやすいので周辺に保全すべき個体や個体群がある場合に植栽を控えるなど注意を要する。
- ※4 その他の植栽樹種行のII-A及びII-Bゾーン列枠内の樹種名の字下げは、海岸林に自然侵入する広葉樹の海側からの相対的な侵入位置の目安である。
- ※5 肥料木が主林木その他の標準樹種を、また標準樹種間で相互に被圧することがないよう配植に留意する。
- ※6 ヤナギ類は先駆性樹種で肥料効果は乏しい。

表-1 基本樹種

区分	常緑樹		半落葉	落葉樹	
	針葉樹	広葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹
高木 ^{※1}		スダジイ ^{※3} アカガシ ^{※3} シラカシ ^{※3} シロダモ タブノキ ^{※3} ユズリハ			サイカチ アカメガシワ ^{※2} イタヤカエデ ヤマボウシ エゴノキ マルバアオダモ クサギ ^{※2}
中～亜高木		ヤブツバキ ヒサカキ カクレミノ ネズミモチ			ヤマグワ ^{※2} ノリウツギ マンサク サンショウ リョウブ ナツハゼ ニワトコ ^{※2}
低木		トベラ マサキ ヤツデ	オオバイボタ ^{※2}		ニシキギ ^{※2} ウリカエデ イボタノキ ^{※2} ムラサキシキブ ガマズミ

- ※1 高木: 相双地方の気象条件において必ずしも高木とならない樹種を含む。
- ※2 アカメガシワ他は先駆性樹種
- ※3 遺伝資源損失を防止するため、天然記念物や地域に残った天然記念物相当の個体や個体群の範囲への植栽は不可とする。
また、これらの樹種は成長が遅いことに注意する。

表-2 基本樹種に加えてIIエリアで植栽可能な樹種

名称, 肥料木割合	模式平面図	備考
正方・列状 肥料木 30% 区画：10×10m ○：主林木 ●：肥料木		<ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに肥料木, 主林木を交互に植える
正方・群状 肥料木 25%		<ul style="list-style-type: none"> ・肥料木の部分だけ囲ったりしてわかりやすくする
正方・列状 肥料木 20%		<ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに肥料木, 主林木を交互に植える
千鳥・単木 肥料木 20%		<ul style="list-style-type: none"> ・千鳥に植える ・植栽位置に要目印

※他にもさまざまなパターンがある

表-3 広葉樹（肥料木を含む）の配植パターン例と概要(5,000本/ha)